２０１３年9月２０日

各　位

会 社 名　イ　オ　ン　株　式　会　社
代表者名　取締役兼代表執行役社長　岡田 元也
（コード番号８２６７　東証第一部）
問 合 せ 先　秘 書 室 責 任 者　堤　唯 見
（電 話 番 号　043-212-6042）

当社子会社（マックスバリュ中部株式会社）業績予想の修正及び特別損失の計上について

最近の業績の動向等を踏まえ、当社連結子会社であるマックスバリュ中部株式会社（名証第２部：コード８１７１）が、特別損失を計上するとともに２０１３年４月９日に公表した２０１４年２月期第２四半期累計期間の業績予想を添付資料のとおり修正することとなりましたのでお知らせします。

尚、本件による当社の連結業績予想の変更はありません。

以上

２０１３年９月２０日

各　　位

会 社 名　　マックスバリュ中部株式会社
代表者名　　代表取締役社長　　鈴木 芳知
（コード番号：８１７１　名証第２部）
問合せ先　　取締役総合企画本部長　小泉　　覚
（ＴＥＬ：０５２－８５７－０７１９）

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、２０１３年４月９日に公表した２０１４年２月期第２四半期累計期間の業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

また、同期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

１．業績予想の修正

（金額の単位：百万円）

2014 年２月期第２四半期（累計）連結業績予想数値の修正（2013 年３月１日～2013 年８月 31 日）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	７７,３００	１,２５０	１,２５０	６５０	２０円５３銭
今回修正予想（B）	７６,１００	４４０	４９０	１７	０円５４銭
増 減 額（B－A）	▲１,２００	▲８１０	▲７６０	▲６３３	－
増 減 率　　（%）	▲１.６	▲６４.８	▲６０.８	▲９７.４	－
（ご参考）前期第2四半期実績（2013年2月期第2四半期）	－	－	－	－	－

※当社は、2013 年２月期より決算日を１月 31 日から２月末日に変更いたしました。これに伴い、当第２四半期（2013 年３月１日から 2013 年８月 31 日）と比較対象となる前第２四半期(2012 年２月１日から 2012 年７月 31 日）の期間が異なるため、前期第２四半期実績については記載しておりません。

2014 年２月期第２四半期（累計）個別業績予想数値の修正（2013 年３月１日～2013 年８月 31 日）

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	７７,３００	１,３５０	１,３５０	７５０	２３円６９銭
今回修正予想（B）	７５,８００	４２０	４６０	▲７	▲０円２２銭
増 減 額（B－A）	▲１,５００	▲９３０	▲８９０	▲７５７	－
増 減 率　　（%）	▲１.９	▲６８.９	▲６５.９	－	－
（ご参考）前期第2四半期実績（2013 年２月期第２四半期）	－	－	－	－	－

※当社は、2013 年２月期より決算日を１月 31 日から２月末日に変更いたしました。これに伴い、当第２四半期（2013 年３月１日から 2013 年８月 31 日）と比較対象となる前第２四半期(2012 年２月１日から 2012 年７月 31 日）の期間が異なるため、前期第２四半期実績については記載しておりません。

２．修正の理由

当第２四半期累計期間は、業種業態を越えた競合他社とのシェア争奪や価格競争が激しさを増す厳しい経営環境が続きました。こうした中、当社は３月１日付のマックスバリュ中京株式会社との合併に合せてスタートした「合併記念パワーアップセール」などの販促強化やイオンのブランド「トップバリュ」を軸とした価格政策の見直しなど、売上高の拡大を図りましたが、自社ポイントカードからイオンの電子マネー「ＷＡＯＮ（ワオン)」への切り替え時の浸透の遅れ等により、買上点数悪化のトレンドを回復させることができず、既存店売上高前年比９６.７％（当初計画９９.４％）となり、営業収益が当初予想を下回る見込みとなりました。

営業利益・経常利益につきましては、売上不振や荒利益率の低下に伴い営業総利益が悪化したことに加え、合併時のシステム変更、作業手順変更などに伴う人件費の増加や売上対策に伴う販促費の増加など販売費及び一般管理費も増加し、連結・個別ともに当初予想を下回る見込みとなりました。

四半期純利益につきましては、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失など、特別損失５９１百万円の計上により、予想を下回る見込みとなりました。なお、通期の業績予想につきましては前回予想を修正しておりません。

３．特別損失の計上及びその内容

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、店舗に係る減損損失５６３百万円、遊休資産等に係る減損損失５百万円を計上する見込みであります。また、その他特別損失として２２百万円を計上し、当第２四半期累計期間の特別損失は５９１百万円となる見込みであります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上